

域づくり

さらに、それぞれの地域は周辺の地域どうしで支え合うことが重要です。

例えば、河川の流域内の人々は互いに、河川の水やその水を育む森林などの森里川海のつながりを守り、そのめぐみを分かち合うことで、豊かな暮らしを維持してきました。将来にわたって自然のめぐみを受け続けるためにも、流域全体で広域的に地域どうしの連携をすることが重要です。

特に、都市と地方はお互いにはないものを持っているため、地方で作ったエネルギーを都市で使う、地方の自然の恩恵を受けている都市で働いていた人がその能力を生かして地方ならではの仕事を始める、都市の住民が地方での自然保全活動に参加するなど、いろいろな形で支え合うことができます。

このように、環境対策で地域を元気にするような取組が行われている圏域を「地域循環共生圏」と言います。

そして、人間も自然の一部です。地域資源を生み出すもとなる自然と対立するのではなく、自然と共に暮らし(共生)ながら地域資源を活用(循環)していくことは、結果として無駄がなく、効率的で温室効果ガスも減らす仕組みづくりにつながります。このような仕組みは、生きものの世界の仕組みに学ぶところも多く、これが進んだ持続可能な社会を「環境・生命文明社会」と言います。

